

「第12回スポーツ環境会議」議事録（要旨）

平成31年1月30日（水）14:00～16:00

新宿区役所本庁舎6階 第2委員会室

1 出席者

1	間野 義之（学識経験者）	12	藤原 千里（公募委員）
2	今泉 清隆（区体育協会）	13	中山 順子（生涯学習スポーツ課長）
3	金子 和子（区スポーツ推進委員協議会）	14	佐藤 陽一（新宿未来創造財団等担当課長）
4	小菅 知三（区レクリエーション協会）	15	太田 公一（障害者福祉課長）
5	山田 和男（区町会連合会）	16	高橋 昌弘（地域包括ケア推進課長）
6	太田原 武（区高齢者クラブ連合会）	17	谷川 省一（子ども家庭課長）
7	徳堂 泰作（区障害者団体連絡協議会）	18	矢澤 正人 参事（健康部健康政策課長 代理）
8	大塚 フジエ（区青少年育成委員会）	19	依田 治朗（みどり公園課長）
9	山本 芳裕（区小学校PTA連合会）	20	齊藤 正之（教育調整課長）
10	宮嶋 武綱（スポーツ関連事業者）	21	浅野 祐介（東京2020オリンピック・パラリンピック開催等担当課長）
11	関口 美緒（公募委員）		

欠席者2名

鈴木 和成（区中学校PTA協議会）

小柳 俊彦（新宿未来創造財団事務局長）

机上配付資料

資料1 スポーツ環境会議設置要綱

資料2 スポーツ環境会議委員名簿

資料3 関口委員からの情報提供「留学生のスポーツ意識調査」

資料4 藤原委員からの情報提供「第30回東京都肢体不自由特別支援学校ハンドサッカー大会」

資料5 楽しく歌って、動かして、食べる幸せいつまでも（新宿ごっくん体操のうた）

資料6 東京2020オリンピック・パラリンピックの気運醸成に関する区の取り組みについて

資料7 新宿区主催 東京2020オリンピック・パラリンピック500日前記念イベント

資料8 新宿区レクリエーション・フォーラム2019

～障がいのある方とスポーツを共に楽しむために～

資料9 新宿区スポーツ推進委員紹介リーフレット

資料10 スポーツ指導者講習会

資料11 新宿スポーツセンター通年教室

資料12 障がい者スポーツデー

資料13 「スポレクキャラバン隊」事業

～障がいのある方へスポーツ・レクリエーションの出前を～

2 事務局

新宿区 地域振興部 生涯学習スポーツ課

3 会議内容

(1) 開会

(2) 生涯学習スポーツ課長あいさつ

本日はお忙しい中、第 12 回スポーツ環境会議にご出席いただき、また、日頃より新宿区の地域スポーツ振興に多大なご尽力を頂戴しており、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、去る 1 月 27 日の「第 17 回 新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン」について、皆様のご支援、ご協力のお蔭を持ちまして無事に終了できましたこと、重ねて御礼申し上げます。

今回のスポーツ環境会議は、今年度 2 回目となり、締めくくりの会議でもある。10 月に開催した第 11 回会議後に皆様方で取り組まれた事例があればご報告いただき、また、年度を通じて取り組んでいる事例があれば合わせてご報告をいただきたい。

今回の会議のテーマであるが、前回に引き続き「各団体の連携」について、ご意見をお伺いしたいと考えている。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会をいよいよ来年に控え、新宿区としても全庁を挙げて大会に向けた気運醸成、準備を進めているところであり、今回も前回に引き続き東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長にも同席をいただいている。なお、今回は学識経験者の間野先生もご出席いただいている。間野先生は、現在東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に参与という重責でご参画されており、お話しをお聞きできればと考えている。また、皆様の活動報告をお聞きいただき、是非コメントを頂戴したいと思う。

この会議でいただいたご意見は、新宿区のスポーツ振興に活かしたいと考えているので、皆様のご協力をお願いしたい。

(3) スポーツ環境や活動に関する現状報告及び意見交換

ア 各団体・委員からの報告

・区体育協会

当協会は総勢 37 団体が加盟し、多くの団体がスポーツに取り組んでいるが、若い世代の会員がなかなか入ってこないことに協会として非常に困っている。サッカーの競技者は増えているが、野球やバレーボールなどは減っており、協会としても非常に驚いている。中でも中学生の競技者数がかかり減っているとのことである。一方で、シニア世代は色々なスポーツをして元気で頑張っている。体育協会としては、体が動ける間は生涯頑張っていくことを目標にしたい。また、ジュニア世代をなんとか増やしていこうと、皆様にご協力いただきながら、スポーツ推進を頑張っている。

・区レクリエーション協会

<資料 8> をご覧いただきたい。当協会では、みんなと一緒にスポーツを楽しむというフォーラムを続けており、この背景には、平成 25 年 2 月に策定された「新宿区スポーツ環境整備方針」がある。この整備方針の中には「多様な利用者に配慮した施設の機能充実」「スポーツを楽しむ機

会の創出」「スポーツ活動を支援する情報環境の整備」「区民のスポーツ活動を支えるスポーツ推進体制の充実」の4つの基本施策があるが、これを受け、民間団体としてこういった形で障害者の方と一緒にスポーツができるかを目的に、新宿レクリエーションフォーラムを平成28年度から実施している。結論から言うと、あまり関心を持っていただけていない。スポーツ団体、障害者団体等、まだまだ関心が薄いと、この数年で感じている。

平成29年3月に第二期スポーツ基本計画が制定された。その中で、障害者の成人の週1回のスポーツ実施率を、現状の19.2%から倍の40%にするということが提示された。我々もそれを受け、民間団体として行政とどのように取り組んでいくべきか考えているところである。このフォーラムを区内できちんと展開し、関係団体はなるべく参加するようにして、2019年もコズミックセンターのご協力や担当課長のご協力をいただき、開催する運びとなった。ここにいる皆様にも是非参加していただきたい。

・区町会連合会

町会ではスポーツに直接関わることは少ないが、年に一度各地区で行われているコミュニティスポーツ大会では、スポーツ推進委員の方のご指導のお蔭で、私が住んでいる柏木地区でもボッチャを皆さんに興味を持ってやっていただいている。中央大会には小学生も参加していただいた。そして高齢者の方からも機会があればやってみたいという声が挙がっている。ボッチャは道具が高いが、なんとか予算を工面していただき、幅広い世代に広めていきたいと思っている。

コミュニティスポーツ大会以外では、地域でスポーツに関わる機会は少ない。色々な催しや企画を立てていただいているが、参加しない方が多いのが現状。高齢者は輪投げはよくやっているが、実感としてはまだまだ参加者が少ないので、なんとかスポーツを通じて地域のコミュニティが作れたらと考えている。世代間交流も生まれるだろうし、ボッチャにはその可能性があると思う。地域がもう少しスポーツに近付いていけたらいいなという思いである。

・区高齢者クラブ連合会

グラウンドゴルフ、輪投げ、囲碁、将棋を年に2回、春と秋に実施している。去年からボッチャを始めたが、まだ試合ができる段階まではいっていない。今年は試合ができる段階までいきたい。女性は、フォークダンスを毎週定期的にやっており、最近はエアロビクス等ダンスをやり始め、男性にも普及すべく会長が率先して行っているが、盆踊りと違い、なかなか難しいと感じる。

・障害者団体連絡協議会

<資料12>をご覧いただきたい。既にご存知の方も多いかと思うが、毎月第4木曜日にフットサルと卓球を、それから今年度からは隔月第4土曜日に卓球とボッチャを、新宿コズミックスポーツセンターで定期的に行っており、障害のある方もない方も一緒に楽しんでいる。フットサルには毎回10~20名位が参加していただいている。ボッチャは毎回10名位が参加し、少しずつではあるが区内の方にも認知されてきたところである。今後は、比較的重度の障害をお持ちの方に対して、どのように興味を持っていただき、参加していただくか、さらに働きかけをしていきたい。新宿区サッカー協会さんにご協力をいただけるお話も出てきているので、連携をしながらスポーツを推進していきたい。

また、パラリンピックの開催を控えているが、気運が高まっているかといえば、正直なところあまり高まってはいないと思う。「東京 2020 大会 500 日前記念イベント」等、我々も協力して盛り上げていけたらと思っている。

- ・区青少年育成委員会

落合第一地区では毎年、子どもたちを 2 泊 3 日でスキー教室に連れていくという事業を行っている。貸切バス 3 台で行くのだが、参加を希望する子どもたちは抽選が必要なくらい集まる。しかし、委員の中で、スキー指導を 3 日間できる方がいない。現在は高校生、大学生、社会人の方 8 名が手伝ってくれていることで実施できているが、委員が 3 日間同行するのは非常に難しい現状である。第 19 回目を迎える今年度についても、3 月 29 日（金）～31 日（日）に南会津方面にて実施予定であるが、地域の子どもたちはたくさん参加してくれるが、大人の手が全く足りていない。

地域の方々とのコミュニケーションは、青少年育成委員会は良く取れていると思う。色々ところで地域の子どもたち、地域の方々、PTA と関わっている。関わる大人が楽しくないと子どもたちも参加しないと考えているので、ご協力をお願いしたい。

- ・小学校 PTA 連合会

11 月下旬に PTA バレーボール大会を、1 月 13 日（日）に PTA 卓球大会を開催した。また、1 月 27 日（日）開催の「新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン」において、2km の部に約 200 名の児童が参加したが、男女別で各学年上位 3 名までの表彰式を、3 月 3 日（日）の「東京 2020 大会 500 日前記念イベント」での文化交流ゾーンにて、小 P 連主催で行う予定である。＜資料 7＞のとおり、競泳メダリストの星奈津美さんに子どもたちへのメダルの授与、トークショー、体幹教室等をしていただき、一緒に盛り上げていただく。同じく文化交流ゾーンでは、午後に四谷第六小学校、淀橋第四小学校、西戸山小学校の 3 校の金管バンドや吹奏楽部等の児童が演奏をする。先日の「新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン」でも西新宿小学校の和太鼓、四谷第六小学校の踊りと歌で、ランナーの皆さんを激励させてもらった。

小学校では、1 月 22 日（火）四谷第六小学校に元サッカー日本代表の岩本輝雄さんを、2 月 8 日（金）淀橋第四小学校にサッカー元日本代表の岡野雅之さんをお招きする。また、2 月 13 日（水）鶴巻小学校に男子バレーボールの山本隆弘さんを招き、バレーボールの楽しさを少しでも伝えようとお話しいただく。これらの催し物は、新宿未来創造財団のご協力のもと、進めている。

前回の「東京 2020 大会 777 日前記念イベント」は愛日小学校で実施された。愛日小学校の子どもたちや関係者しか参加できないと思われがちだが、会場が愛日小学校というだけであり、新宿区内の皆さんが参加できるイベントだった。3 月 3 日（日）の「東京 2020 大会 500 日前記念イベント」も子どもたちがたくさん参加できるような内容になっているので、小 P 連でも、現在各学校にお声がけをしている。高齢者の方々も参加できる催し物がたくさんあるので、一緒になって盛り上げていきたい。

- ・スポーツ関連事業者代表

新宿スポーツセンターはご存知のとおり、設備改修工事のため現在休館中である。工事期間は 3

月 31 日（日）までとなっているが、工事の進捗状況によっては 3 月からプール・トレーニングジム等の一部施設は開放できる予定なので、進捗が分かり次第、皆様にご案内させていただきたい。

新宿スポーツセンターでは、子ども向けの教室をたくさん企画している。＜資料 1 1＞のとおりであるが、このチラシを今週 2 月 2 日（土）に新宿スポーツセンターの半径 2.5km 圏内に、新聞折り込みとポスティングで 5 万部配布する予定である。また、同様に 3 月上旬に教室とイベントの案内を行い、4 月のオープンからまた多くの皆様に参加していただきたいと考えている。

また、休館中ではあるが、＜資料 1 0＞のとおり 3 月 11 日（月）にスポーツ指導者講習会を開催する。国立スポーツ科学センターでトレーニング指導をされている小林靖長氏を迎え、安全にトレーニングをするための効果的なウォーミングアップ方法について講義いただく。お時間のある方は是非ご参加いただきたい。

そして、＜資料 1 1＞のとおり、4 月にはアクアジムというイベントを予定している。プール上に水上アスレチックを置いた SASUKE のようなイベントであり、子どもから大人まで楽しんでいただけるようなイベントとなっており、大変盛り上がるので、是非ご参加いただきたい。

これからも地域の皆様に喜んでいただけるように、また体育協会やスポーツ推進委員の方々と楽しい企画をして喜んでいただけるような施設にしていきたいので、引き続きご協力をお願いしたい。

・関口委員

私は大学で世界各国からの留学生に講義をしている。今回も外国人のスポーツに対する調査を行った。

＜資料 3＞をご覧ください。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会においてボランティアを募集したところ、外国人の方からの応募が非常に多かったという報道もあるとおり、外国人のスポーツ、オリンピック・パラリンピックに対する意識は非常に高い。

一般の方が外国人に触れる機会は少ないと思うが、私の場合は一日中英語で生活するぐらい外国人留学生と毎日接しているため、彼らがどのようなソサエティに参加したいか、日々意見を聞いている。そこでは、スポーツを通じて日本人と関わりたいという声が多いが、「一体どこで何をどうしていいかわからない」という。私は専門家ではないため、皆様への問題提起というか少し興味を持っていただきたいところであるが、＜資料 3＞のとおり、多くの外国人がバレーボールであったりサッカーであったり、スポーツに参加したいと思っている。ジョギングが人気があるが、それは「一人でもできるから」。実際、彼らは日本語を使って日本人ともっと関わりたいと考えている。こういった人たちがスポーツを通して外国人と日本人の架け橋となってくれるのではないかと。外国人の実態にも少し目を向けていただけたらと思う。

・藤原委員

私は、重度心身障害者が学校教育で経験したスポーツを、卒業後も継続して取り組めるような環境作りに取り組んでいる。＜資料 4＞をご覧ください。こちらのイベントは、全国的に見ても最大級のハンドサッカー大会であり、東京都の肢体不自由児の特別支援学校が全校参加する大会になっている。こういった大会を目標に、日々の学校の体育の授業の中でスポーツに取り組んでいるが、高等部を卒業すると継続的にスポーツをすることが難しい状況である。2020 年に向

けてパラスポーツを紹介するイベントは増加しているため、地域的な認知度は向上しているが、オリンピック・パラリンピック競技大会が終わった後も継続して、目的意識をもってスポーツをしていく環境を安定して作っていきたいと思って日々活動している。

現在の課題は、場所の確保や指導者、サポートスタッフの確保等たくさんあるが、徐々に理解が進んできており、小規模ながらも卒業生だけのチームを作って大会を実施できているので、今後は地域を広げていき安定的に活動ができればと思う。

・スポーツ推進委員協議会

コミュニティスポーツ大会は、10月から11月にかけて10地区で地区大会が、そして12月9日（日）に中央大会が行われたが、スポーツ推進委員は、この各大会で審判として活動した。中央大会に進出してきたビーチボールバレー、ユニカール、輪投げ、ボッチャの各チームの準備体操をしている姿は元気そのものであったが、よく見ると「新宿いきいき体操」のサポーターの方々がたくさんいた。この元気な姿は「新宿いきいき体操」の効果ではないだろうか。本日はこの後、「新宿ごっくん体操」のお話などもあるが、こういう活動が波及していくとよい。

また、スポーツ推進委員には、ボッチャの指導や審判の依頼等のボッチャに関連した依頼が各所から来る。一例を挙げると、11月の「ここ・からまつり」や12月に新宿駅西口広場で行われた共同バザール「手づくりマーケット in 新宿区」にて、ボッチャの体験ブースを出展した。また、箱根山駅伝や東京都障害者総合スポーツセンターでの「はばたきジュニアスポーツ交流大会」のふうせんバレーボール大会等、スポーツ推進委員はボッチャ以外でもサポートを行っている。1月19日（土）20日（日）にはジャパンパラボッチャ競技大会が開催され、日本、カナダ、韓国のボッチャの選手が出場したが、選手入場の際のエスコートキッズのサポートをした。国際大会に関わることができたエスコートキッズたちはいい経験になったのではないだろうか。まだまだ活動はたくさんあるが、各地区での活動については、＜資料9＞をご参照いただきたい。

各地区でスポーツ推進委員がお役に立てることがあれば、是非お声がけいただきたい。

・間野委員

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会もいよいよ来年に迫ったわけだが、2020年はゴールではない。ただの通過点であり、その後が大切である。これをゴールとしてしまうと大会終了後は何も残らない。そうならないように、次のステージに向かうための重要なステップであり、レガシーが大事であると考えること。ハード面では、新宿区には大会後に新国立競技場という大きなレガシーが残る。しかし、特に残さなければいけないのはソフト面でのレガシーである。今から計画・作成し、大会終了後もさらに良くなるものをこの会議で皆さんで考えていくことが重要である。

ちなみに、2024パリ大会のコンセプトは既に発表されており、それは「3つのゼロを達成すること。貧困ゼロ、失業ゼロ、カーボン排出量ゼロ」の3つである。この3つのゼロをアスリートと若者とテクノロジーを組み合わせることで達成し、レガシーを作ることを目標にしている。日本でレガシーというと建物のことばかり言われるが、それだけではない。新しいソーシャルビジネスを興していくこと、それが2024パリ大会である。パリ市では、ノーベル平和賞受賞者でマイクロファイナンス、グラミン銀行を創設したムハマド＝ユヌス氏というバングラデシュ人をパリ

市名誉市民に据えて、大会終了後も新しい時代のものをパリに残すということを目的に取り組んでおり、こういった取り組みが大切である。

日本人なので 2020 大会はきつうまくいくだろう。しかし、そこをゴールとして焦点化せず、その先を見据え、新宿区としてどのようなスポーツをやっていくか考えていくことが大切である。子どもが中々スポーツをしないということであれば、今あるものではない新しいものを考案するなど。スポーツライミングもスケートボードもオリンピック競技になった。e スポーツはスポーツなのかという議論はあるが、2019 年の茨城国体では都道府県別対抗戦が開催される。また、2018 年インドネシアのジャカルタで行われたアジア大会では公開競技で行われて、2020 年のアジア大会では正式競技となっている。いいか悪いかは別として、このように時代がどんどん進んでいっている。東京という最先端都市で、その中の最先端都市である新宿区らしいもの、新しいものを作っていくのも面白い取り組みではないだろうか。

イ 各課での取り組みについて

・生涯学習スポーツ課

先ほど区町会連合会や高齢者クラブ連合会からもあったとおり、ボッチャの認知度が上がってきている。当課でも、大人も子どももできるボッチャにコミュニティスポーツとして大きな可能性を感じている。金子座長が先ほど言われたジャパンパラボッチャ競技大会だが、やはり世界トップクラスの選手のパフォーマンスは全く別のものであった。オリンピックやパラリンピックでもそうだが、一流選手のパフォーマンスを生で見ることは素晴らしい体験であり、間野委員も言われたレガシーになりうるのではないだろうか。当日サポートいただいたスポーツ推進委員の方々も、選手の動きよりも審判の動きをよく観察され、中にはメモを取られている方もおり、ボッチャの普及啓発に力を入れてくださっているのを感じた。

当課ではスポーツ推進委員の方々のご協力なくしては事業が成り立たず、スポーツ推進委員の方々が軸となって地域や各団体の方々と繋がっている。地域に種を撒くのは行政ではなく、地域の方々の力をお借りしながら進めていくのは非常に大切なことだと考えている。現在 37 名のスポーツ推進委員の方がいるが、23 名の方が障害者スポーツ指導員資格を保有している。これは自治体の中でもかなり高い率であり、とても有難いことである。是非この力をどうやったら皆さんにつなげていけるか、連携を考えていくことに今後も取り組んで参りたい。

・新宿未来創造財団

日頃より、区政および財団の運営にもご理解とご協力をいただいております、感謝申し上げます。

まずは 1 月 27 日（日）、たくさんの方々のご協力をいただき、また天候にも恵まれ、「第 17 回新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン」を無事に終了することができた。改めて御礼申し上げます。実施結果は現在集計中であるが、昨年 9,602 人のランナーが参加したが、今回は 10,000 人を超えるランナーが出走した。救護所を使ったランナーが 40 人ほどいたが、救急搬送は 2 大会連続でゼロであった。

そのほかの今年度の取り組みであるが、区内最大の区民総合体育大会では 20,000 人近い参加をいただいた。また、オリンピック・パラリンピックへの取り組みであるが、新宿コズミックセンターは年間 50 万人以上の方々にご利用いただいている施設である。引き続きトップアスリートを

お迎えした事業を行っていく予定だが、この多くの利用者にも普及啓発していけたらと思う。

・障害者福祉課

障害者週間が毎年12月3日から1週間あるが、それに合わせて新宿駅西口広場イベントコーナーにて共同バザール「手づくりマーケット in 新宿区」を行った。金子座長から先ほど紹介があったとおり、今回はスポーツ推進委員の方の協力をいただき、ボッチャの体験ブースを出展した。また、ブラインドサッカーの代表選手を招いてステージで講演をいただいたり、よしもとクリエイティブ・エージェンシーにご協力いただき、若手芸人の方に面白いブースやパラスポーツを紹介していただくという取り組みをした。

来年度の予定としては、パラスポーツにもっと関心を持っていただこうと、障害者スポーツ協会から講師をお招きし、講演会を企画、障害者団体や障害者の方に広く参加していただきたいと考えている。

障害者施設を色々回ると、成人を祝う会が多く催されている。1998～1999年生まれが新成人になるわけだが、1998年といえばアジアで初めての冬季パラリンピックが長野で開催された年である。日本の選手団はいくつメダルを取ったでしょうといったクイズを各施設で出すが、10個や20個といった答えが返ってくる。正解は41個。新聞でもスポーツ欄にパラリンピック選手の活躍が取り上げられるようになった分岐点のような大会だったというお話を現場でさせていただいている。間野先生のお話もあったように、来年の大会は障害者スポーツにとってのレガシーとなるような大会になればいいと思い、地域の皆様と一緒に盛り上げていければと考えている。

・地域包括ケア推進課

当課では、特に高齢者の方の健康づくりや介護予防、生きがいづくりといった観点で様々な取り組みを行っている。前回の会議以降の取り組みだが、秩父でのいきいきハイキングを実施した。高齢者クラブの取り組みに関しては、団体と連携して高齢者の方が様々なスポーツに触れる機会を増やしていきたい。また、当課で管理している地域交流館やシニア活動館が合計19館あるが、各館の指定管理者とともにボッチャに取り組んでおり、様々な場所で様々な団体が交流しながらさらに普及が進んでいけばいいと思う。

今年度の大きな取り組みとしては、「新宿いきいき体操」が今年度で10周年を迎え、先週記念式典を行った。これを契機にますます広めていきたいと思っている。また「しんじゅく100歳トレーニング」(以下、「100トレ」)の開発に当課も携わり、この式典において初めてお披露目をしたところである。「100トレ」とは、今年度、介護予防やフレイル予防を目的に、筋力トレーニングに着目して開発した新しいトレーニングであるが、今後区民に積極的に普及していきたいと考えている。先ほど金子座長より「新宿いきいき体操」のサポーターが様々なところでご活躍をいただいているというお話があったが、この10年間で300名以上の方がサポーターとして登録し、現在も多くの団体が定期的に活動している。この10年間の区民の皆様の努力の結晶であり、非常に大きな財産である。来年度からはこの「100トレ」とともに、「新宿ごっくん体操」「新宿いきいき体操」の3つの体操のさらなる普及を一体的に図っていきたい。そのためには、「新宿いきいき体操」サポーターの皆さんや「新宿いきいき体操」を定期的に実施していただいている会の皆さんと連携して取り組んでいきたいと思っている。また、本日お集まりの皆さんにも是非関心を持

っていただき、ご協力をいただきながら区民への普及を図っていききたい。

・教育調整課

教育委員会では、子どもたちのスポーツへの関心と体力の向上を目的に、児童・生徒が運動の楽しさに触れ自ら運動に親しむことができるよう、「スポーツギネス新宿」という取り組みを、小・中学校で継続的に実施している。来年度に向けて、運動が苦手な児童でも参加しやすくするとともに、小学校低学年などでは運動遊びの中でも取り扱うことができるような新種目を取り入れたいと考えている。また、平成 29 年度より障害者スポーツ体験授業を全校で実施しているが、来年度も引き続き実施していく。

そして、都内全ての公立学校の児童・生徒に対して、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を観戦する機会を提供するという発表が、昨年 10 月に東京都よりあった。東京で開催され、新宿に大会のメインスタジアムがあるわけで、それを生で観戦する機会は人生の糧となり、かけがえのないレガシーを残すことができるだろう。しかしながら、実際に子どもたちを引率する教員の問題や、今年の夏のような酷暑の問題もある。また、競技会場の最寄駅から競技会場の入場までは大変混雑しているため、会場によっては徒歩で 1 時間以上かかるような話も聞いている。しっかりと児童・生徒の安全を確保しながら競技観戦を実現できるよう、学校と教育委員会できり組んでいかなければならない。この取り組みも現在進んでいるので、進捗があったらまたご紹介させていただきたい。

・みどり公園課

利用者が安全に運動したり遊んだりできるよう、180 近くある区立公園において施設の保守・改善に努めているところである。特に西新宿にある新宿中央公園については、魅力向上をさらに図っていこうと区で力を入れて取り組んでいるところであるが、来年度はいよいよ広大な芝生広場の再生とカフェ・レストランの設置を進めていく。それに伴い、7 つある健康遊具を現在移設している。使用状況としてかなり人気があるため、新しい遊具に置き換えたりもしており、腕立て、屈伸、ツイスト、肩旋回、ぶら下がり、といった機能を持った新しい遊具にしている。2 月中旬には新しい遊具に置き換わる予定である。

新宿中央公園を中心に、これからも健康づくり等に役立つ環境づくりに努めていきたい。

・健康部

健康部では、高齢者の健康づくりのため「100 トレ」と「新宿ごっくん体操」の普及をしている。

高齢になっても自分の口でしっかりと食事ができ、家族と楽しく食事ができることは、健康の一つのシンボルである。それを推進するために、また、現在死因の第 3 位となっている誤嚥性肺炎を予防するために、新宿区オリジナルの「新宿ごっくん体操」という口の体操を開発した。歌を歌ったり上半身を動かしたりすることで、食べ物を飲み込む力がしっかりと鍛えられるという体操である。金子座長にはごっくんリーダーになっていただいております、普及にご協力をいただいている。この体操の開発には、国立国際医療研究センター リハビリテーション課の藤谷先生のご指導のもと、新宿区歯科医師会副会長、スポーツ推進委員の奈良さん等多くの区民の方を中心

に集まっていた。後ほどお時間をいただいご紹介ができるということで大変うれしく思っているが、地域や団体の方に覚えていただき、そしてごっくんリーダーになっていただき、生涯美味しく食事が取れる、そういったまちにしていきたいと思っているので、今後ともご協力をお願いしたい。

・子ども家庭課

当課では各地区の青少年育成委員会の活動を助成していく中で、地域のスポーツ活動を支援している。

11月には、箆笥町地区、若松地区、早稲田地区、牛込警察と合同で「第27回 私たちとお巡りさんとのマラソン大会」を、箆笥町地区では「第36回 地域レクリエーション」を、早稲田地区では「のんびり歩こう会」や「ドッジボール大会」を開催した。

12月には、四谷地区、戸塚地区、落合第二地区で「サッカー大会」が、大久保地区、柏木地区では「親子でボウリング大会」が開催された。

今後については、2月には角筈地区で「スキー・スノボの集い」、3月には落合第一地区で「スキーツアー」が実施される予定である。

・東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課

当課からはオリンピック・パラリンピック気運醸成の今後の取り組みを紹介する。〈資料6〉をご覧ください。2019年度以降、「東京2020オリンピック・パラリンピック区民参画基金(仮称)」を創設する。この基金を活用し、区内の各団体が行う気運醸成イベントや文化・芸術活動の支援をしていく。補助金額や補助率等の具体的な内容については現在検討中だが、2019年4月より助成制度として運用していきたい。

次に普及啓発の取り組みであるが、あゆみの家で行われた「あゆみ祭り」で実施したトリックアートコーナーは、前回の会議後に藤原委員から相談があり実現したものである。写真のとおり聖火を灯しているかのように見えるトリックアートであるが、他にも様々なコンテンツがあるので、今後もぜひお声がけをいただき、オリンピックに向けた気運醸成につなげていきたい。

また、昨年6月に「東京2020大会777日前記念イベント」を愛日小学校等で実施したが、3月には「東京2020大会500日前記念イベント」を実施する。9月には「ラグビーワールドカップ パブリックビューイング」を、11月には「東京2020大会250日前記念イベント」を、2020年には大会直前に聖火リレーイベント、大会期間中はパブリックビューイングのイベント等を予定している。庁舎の外壁やエレベーター等にスポーツに関連した躍動感のあるデザインや創作を施していく「新宿区シティドレッシング」については、来館者や来庁者にスポーツの魅力を発信していくという取り組みであり、2月頃から順次装飾、設置を予定している。「大会開催までの日めくりカレンダーの製作・配布」については、区立小・中学校の児童・生徒に絵を描いてもらい、大会開催までの日めくりカレンダーを製作するものである。製作した日めくりカレンダーは、区立小・中・特別支援学校に配布する。描いてもらった絵については、大会終了後も引き続き掲出できるよう現在調整中である。これによって、町中からオリンピック・パラリンピック、そしてスポーツの魅力を発信していきたい。

東京2020大会ボランティアに関する気運醸成として、各団体からのご協力もあり、151名を新

宿区推薦枠ということで都市ボランティアとして推薦することができた。都市ボランティア、大会ボランティアともに、「5 日以上に参加」や「10 日以上に参加」といったハードルの高さもあったので、今後は新宿区独自のボランティア制度を検討していきたい。

続いて<資料 7>をご覧ください。3 月 3 日（日）に西新宿小学校において、「東京 2020 大会 500 日前記念イベント」を開催するが、コンテンツの数を前回「東京 2020 大会 777 日前記念イベント」から倍以上に増やした。14 名のアスリートの方々をお招きし、会場は 4 つのゾーンに分け、様々なコンテンツを披露していく。「ご協力いただいている団体の皆様」の欄にあるとおり、区体育協会、区社会福祉協議会、社会福祉法人南風会シャロームみなみ風、NPO 法人ひまわり Project Team、小 P 連など様々な方々にご協力をいただいて、多くのコンテンツが実施可能となった。特に、「明治の健康セミナー」や「みんなで踊る東京五輪音頭 2020」、「グラウンド・ゴルフ体験」といったコーナーは、シニア層の方々も安心してご参加、お楽しみいただけるコンテンツとなっている。また、子どもたちはもちろんのこと、障害がある方でもご参加いただけるコンテンツを多数ご用意している。東京 2020 大会の大会ビジョンである「多様性と調和」をコンセプトにしたイベントであり、多くの方、様々な背景をお持ちの方に参加して楽しんでいただけるように企画したので、ぜひご覧ください、意見なども頂戴できればと思う。また、広報しんじゅく 2 月 5 日号にて、このイベント一日限りのボランティアも募集させていただく。各団体の皆様やご友人等にご案内いただきたい。

ウ 各報告を受けての自由意見

・金子座長

先日、落合中央公園野球場の凧揚げイベントにて、日本で働いているミャンマー人が参加しているのを見た。関口委員より、外国人の方は日本人と一緒にスポーツをやりたがっているというお話があったが、これなら外国人でも参加でき、交流ができるのではないだろうか。

・青少年育成育成委員会

当会が毎年行っているイベントで、世界でただ一つの凧を作るという「凧作り凧揚げイベント」である。近年低年齢化はしているが、未就学児も親子で参加可能である。

落一町連の前田会長に長く講師をやっていただいております。金子座長にはスポーツ推進委員協議会の会長でありながら凧作り担当の副部長をやっていただいております。色々の方が地域で色々な顔を持って色々な役割を持って活動している。

(4) 各団体の連携について

・地域包括ケア推進課

現在開発中の「100 トレ」であるが、3 月 25 日（月）にお披露目できるよう、健康部と調整中である。また、皆さんに実際に活用していただくための DVD を現在作成中だが、お披露目をした後はこの DVD を地域の皆さんにお配りし、「100 トレ」に自主的に取り組んでいただける団体を増やしていきたい。また、お配りする際、新宿いきいき体操ができる会やサポーターの皆さんに紹介、そこを起点として地域の方々に広めていただくことを考えている。

柔軟性と体力向上のための「新宿いきいき体操」、筋力トレーニングに着目した「100 トレ」、嚙

下機能向上のための「新宿ごっくん体操」、この3つを一体的に行うことでより効果が得られると考えている。町会や青少年育成委員会等にお声掛けをさせていただき、高齢者への働きかけをすることで高齢者の生きがい作りやコミュニティ作り、多世代交流にも資するようなものになればいい。

- ・藤原委員

障害を持っている子どもの中には、嚥下機能が弱く、誤嚥性肺炎になる子どもも多い。誤嚥性肺炎から重篤な肺炎になるケースもある。私の周りでも摂食指導に通っている子どもがいるが、親御さんが「摂食機能を改善するためのリハビリ」といった概念で通わせているためか訓練となると嫌がる子どもが多い。「新宿ごっくん体操」のような、介助者の親御さんも子どもも楽しく取り組めるようなものがあるといい。スポーツには直接的には関わらないかも知れないが、健康を維持するという意味では大切なことである。

- ・健康部

実は「新宿ごっくん体操」を開発する前は、新宿ごっくんプロジェクトという障害や高齢によって嚥下力が低下してきた方を医療的に支えるための、健康部と NPO 法人メディカルケア団体との連携事業を行っていた。そのため、「新宿ごっくん体操」は、障害のある方にも適した体操であると思う。障害児への対応はそれほど多くの経験があるわけではないが、ご相談には今後は是非乗っていきたい。この体操は、予防が目的ではあるが、開発にはリハビリテーションの先生も関わっているので、なかなか歌を歌うことは難しくても、親御さんと一緒に音楽を聴きながら体を動かしたりして、楽しい雰囲気の中かでやるのがこの体操のコンセプトとなっている。

ちなみに、1月7日（月）に落合第一地域センターで実施した「新宿ごっくん体操講習会」においては、障害者福祉関係の方々にもご参加いただいた。今後も障害者福祉の所管の方と一丸となって取り組んでいきたい。

- ・金子座長

では、「新宿ごっくん体操」とはどのようなものなのか。本日、DVD をご用意いただいているので、皆さんで見たいと思う。

- ・健康部

歌詞にもご注目いただきたいが、区内の名所・旧跡を織り込んであることや、口の体操に良いと言われている「パ」「タ」「カ」「ラ」の4音を取り入れ、歌詞にも工夫を凝らしている。

(一同で、新宿ごっくん体操のDVD鑑賞及び実演)

(5) その他 意見交換

- ・区レクリエーション協会

平成25年2月に策定された「新宿区スポーツ環境整備方針」の4つの基本施策のうち、情報環境の整備についてとても重要だと感じた。今回の会議のテーマは「各団体の連携」であったが、

今日の機会でこれだけの情報交換をすることができた。もっと日常的にこういった機会がほしい。

<資料13>をご覧いただきたい。この事業はスポーツの機会の少ない子どもたちに対して、都の助成を受け、スポーツの出前授業をしようというものである。金子座長や藤原委員や区スポーツ推進委員の方にも指導者として参加していただいているが、現場の声としては、障害者スポーツに関して、子どもたちの関心が非常に薄い。それについても、情報だけでも日常的に交換することできたら、相当前に進めると思う。

新宿区の軽スポーツ、ゆるスポーツ、障害者スポーツの推進を実践していくためには、情報が集まるセンターを設置しなければならないことを提案したい。新宿未来創造財団にも動いていただいているが、障害者スポーツの地域の浸透ということに関しては、まだ課題がありはしないか。障害者の成人のスポーツ実施率を現状の倍にすると第二期スポーツ基本計画で言っているのだから、意識を持って取り組みたい。情報交換の場所と機会があればいい。私も相談したいし、情報が欲しい。

・金子座長

先ほど教育調整課より障害者スポーツの体験授業の話があったが、私たちは障害についてどれほど理解できているのだろうか。一緒にスポーツをしようと思ったときに、さっと手が出ないときがあるのは、障害者について理解できていない部分があるからではないか。12月に新宿駅西口広場で行われた共同バザール「手づくりマーケット in 新宿区」でも、障害者の疑似体験ができるブースが出展されていたが、そういう体験を大人がもっとできればいい。また、先日、手をつなぐ親の会主催で新宿コズミックセンターで行われた自閉症の講習会に参加したが、参加者は30~40人程度だった。もっとたくさんの方が受講してくれたら、障害のある人がスポーツしやすくなるのではないか。こういう機会を増やしていくことも大切だと思う。

・障害者団体連絡協議会

障害者団体連絡協議会には、区内の知的、身体、精神の障害を持った方の事業所の団体やNPO団体が加盟している。障害者疑似体験についても出前授業を行っているので、月に1度の定例会でお話しいただければ、興味を示す団体があるかもしれないので、是非お声がけいただきたい。

4 行政からの連絡について

来年度のスポーツ環境会議の実施日程、内容等は未定のため、決定次第お知らせする。